

かわさき 図書館だより



図書館ホームページ: <https://www.library.city.kawasaki.jp/>

図書館ホームページを リニューアルします!



図書館の本の検索・予約やイベント情報など、みなさまにご利用いただいている川崎市立図書館ホームページを、3月にリニューアルする予定です。新しくなる図書館ホームページをぜひご利用ください。



(イメージ)

ホームページリニューアル作業のため、図書館ホームページを一時的に休止します。具体的な日時については、後日、ホームページ・館内掲示などでお知らせいたします。



トップページをシンプルなつくりとし、3つのメニュー

「本のこと」(蔵書検索など)、
「自分のこと」(利用者メニューなど)、
「図書館のこと」(利用案内など)

から、目的に合わせたページにアクセスしやすくなります。

また、「お気に入り」機能を新設し、これから読みたい本やCDをリスト化することも可能になります(利用者ログインが必要です)。

さらに、ティーンズ(10代)のみなさま向けのページを新設し、本の情報などを発信していきます。



寺子屋イメージキャラクター
「寺ッコ」

「地域の寺子屋推進フォーラム」に図書館が初出展

平成30年12月23日(日)に中野島小学校で「地域の寺子屋推進フォーラム」が開催され、多摩図書館が初めてブース出展しました。

フォーラムはものづくりなど楽しいプログラムが体験できる親子体験教室と寺子屋先生の学習支援についての意見交流会の二部構成で、図書館は読み聞かせ絵本の展示、団体貸出、学校支援セットなどのPRコーナーに加え、寺子屋先生の学習支援に関する本の展示、本のしおり作りコーナーなど華やかなブースを出展し、多くの小学生・保護者でにぎわいました。

図書館の出展のメインはおすすめの本のクリスマスツリー。おすすめの本のタイトル、おすすめのポイントをカードに書いてツリーに飾った方々に、手づくりのかわいいサンタ&トナカイのお人形をその場でプレゼントしました。市長、教育長も来場し、楽しいイベントとなりました。





フロンターレ選手と本を楽しもう! 2018

川崎市立図書館では、「読書のまち・かわさき」事業の一環として、J1リーグで活躍する地元のサッカークラブ「川崎フロンターレ」との協働により、読書への関心を促進する取組を行っています（平成30年度で10年目）。



「華麗なリフティングにくぎ付け」

この事業の一つとして、9月29日（土）「試合より緊張した初めての読み聞かせ」に、多摩区役所で「フロンターレ選手と本を楽しもう!」を開催しました。当日はあいにくの雨でしたが、MF脇坂泰斗選手とふろん太を迎え、事前にお申込みをいただいた小学1～3年生の子どもたちとその保護者92名の方々にご参加いただきました。

最初に、脇坂選手に華麗なリフティングを披露してもらった後、読んでもらったのは、選手のおすすめ本を紹介する『キックオフ! 読書のまち かわさき VOL.10』で新井章太選手おすすめの『はらぺこあおむし』と、サッカーにちなんだ『ゴー・ゴー・ゴール!』の2冊。初めての読み聞かせに「試合より緊張した」という脇坂選手でしたが、子どもたちは静かに聞き入っていました。脇坂選手とハイタッチをして会場を後にした子どもたちは、満足そうな笑顔を見せてくれていました。

川崎フロンターレは、2018年もJ1リーグ優勝を果たし連覇を達成しました! ホームスタジアムである等々力陸上競技場でのゲームの際に発行される情報誌『川崎フロンターレ オフィシャルマッチデープログラム』（2018シーズン分もご寄贈いただきました）は中原図書館内でのみ閲覧いただけます（貸出はしていません）。

また、『キックオフ! 読書のまち かわさき VOL.10』は川崎市立図書館各館で配布中ですので、ぜひご覧ください。

第37回



このコーナーでは、川崎をもっとよく知り、もっと楽しむための本を紹介しています。今回は「川崎フロンターレ」をテーマにした本を紹介します。

A:『川崎フロンターレ優勝記念号 2018』

日本スポーツ企画出版社 2018年

雑誌『サッカーダイジェスト』増刊の優勝記念号。2018年シーズンの試合記録、シーズンレポート、35選手のプロフィールやオフショットなど盛りだくさんな内容です。

鬼木監督や選手へのインタビューでは連覇に対する想いや来季への決意なども語られています。Jリーグで5クラブ目となる連覇を成し遂げた川崎フロンターレの1年を振り返ります。

B:『スタジアムの宙にしあわせの歌が響く街』

天野春果／著 小学館 2016年

Jリーグクラブで「地域貢献度」第1位を7年連続で獲得している川崎フロンターレ。そのプロモーション部部长（当時）である著者が手がけた『シンゴジラ』とコラボした『多摩川クラジゴ』など3つのイベントを取り上げて紹介しています。関係者との交渉や偶然の出会いによる実現へのきっかけなど、イベント実施までの裏側が分かります。



スタジアムの宙にしあわせの歌が響く街
天野春果／著 小学館

C:『残心 Jリーガー中村憲剛の挑戦と挫折の1700日』

飯尾篤史／著 講談社 2016年

川崎フロンターレの顔ともいえる中村憲剛選手。2010年南アフリカワールドカップから2015年シーズンにかけては手術や日本代表落選など不運に見舞われました。その中で苦しみ葛藤しながらも高い壁や落とし穴を乗り越え、這い上がり、結果として進化しながら前に進んでいく姿が、本人や周りの人への取材をもとに重層的に書かれています。



川崎フロンターレ
優勝記念号 2018
日本スポーツ企画出版社



残心
Jリーガー中村憲剛の
挑戦と挫折の1700日
飯尾篤史／著 講談社

「木村草太流 本とのつきあい方」

たくさんの方に読書の楽しさを知っていただこうと、毎年開催している読書普及講演会。今年度は、憲法学者であり、首都大学東京教授としてご活躍されている木村草太先生をお迎えし、10月22日（月）午後6時半から中原市民館で開催しました。講演会のテーマは、「木村草太流 本とのつきあい方」。たくさんの方にお申込みいただき、当日は、232名の方々にご参加いただきました。

講演会では、読書や図書館のことのほか、法律のことやいじめの構造、アフリカのソマリアのことなど様々なジャンルに渡りお話しいただきました。

冒頭では、『クレヨン王国』シリーズや『指輪物語』のお話があり、先生にとっての指輪物語は、アラン・リーの挿絵が使われたものが印象強く、「挿絵も本の大切な要素」という先生の熱い想いが伝わってきました。また、笑ってはいけないうちやうなシチュエーションでは絶対読んではいけない本として『VOW』（新聞や雑誌の誤植や街の中で見つけた変な看板などが投稿された本）をご紹介いただきました。大学の入試監督として入試合格者の名前をチェックしていた時に、昔見た新聞の誤植記事と今の状況が重なり、笑いのツボに入ってしまうお腹が痛くなるほど大変だった、という普段聞けないようなエピソードもご披露いただきました。

時折、会場には笑い声が上がり、終始穏やかな空気に包まれていました。参加された方からは、「ユーモアを混じえた話で楽しかった」などの声が寄せられたほか、「読書はタイミングが降りてくる」という先生の言葉に多くの共感の声も寄せられました。とても印象的な言葉です。木村先生は、本は自分が好きなものを読めば、いつだって楽しいわけではないので、名著やすばらしい本は、飢えた気分になるまで、追い込んでから読むようにしているそうです。

最後に、木村先生の言葉の一部（要約）をご紹介します。

「図書館は本当に好きな場所。本を読まなくても素敵な体験が出来ます。

そして、図書館は妖しい場所（笑）。図書館には普段一般の人が立ち入れない閉架スペースがありますが、見えない場所が図書館の裏側にあるというのは、何とも興味をかきたてられます。図書館の妖しさは、図書館の魅力でもあります。

自分の本棚、書店、図書館、それぞれに役割があると思います。読書は、様々なメディアによって支えられているということです。私は電子書籍も好きですが、だからといって、自分の本棚に意味がなくなるわけではないです。ましてや、図書館の存在に意味がなくなるわけでもないです。読書体験を積み重ねていくことで、私たちの人生は豊かになると思います。自分の好きな本に出会って、一生をあたためてくれる本に出会っていただければ、と思います。」



県立川崎図書館と中原図書館の合同見学会を開催しました。

12月1日（土）に、中原図書館と県立川崎図書館の合同見学会を行いました。

中原図書館見学は午前中に開催し、冒頭で館の施設の説明をした後、自動書庫の内部や荷捌きスペースなど普段見ることができないバックヤードを中心に施設を見学していただきました。

参加いただいた11名の方々は次々に質問しながら熱心に見学されており、「機械化された書庫に圧倒された」「普段見られない所に行けてよかった」などの感想が寄せられ、内容に満足いただけたようでした。この後、午後の部では県立川崎図書館を見学いただきました。



図書館長

お薦めの一冊



このコーナーでは、川崎市立図書館の館長がおすすめする1冊をご紹介します。

麻生図書館柿生分館長 永島 治

■「調理科学のなぜ？」

松本 仲子 著

料理に不慣れな私は、料理を作るときインターネットのレシピやレシピ本を参考にします。

レシピの多くは「このように作ります」が写真付きで手短かに説明されていて、その通りに作ると「おいしい」料理ができることになっています。でも、もし美味しくなかったら…？

今回で紹介する「調理科学のなぜ？」の特徴は、レシピそれぞれに作り方が二つ紹介されていることです。「魚を煮付けるとき、魚を入れる煮汁の温度によって身の旨みに差が出るか？」「鍋の熱伝導率による湯豆腐のスの入り方の違い」などのように、作り方の差が味や仕上がりにどのように影響するのか？を科学的な考察を基に書かれています。例えば「ほうれん草のおひたし」を作る場合、「たっぷりのお湯をグラグラ煮立てて…」と、普通のレシピでは「お湯の量と温度」についてはサラッと書かれていて、つい調味料の分量や盛り付けに目が向きがちです。

なぜたっぷりの熱いお湯なのか？については、「シュウ酸（アク）をより多く料理から取り除く」こと。野菜を入れることで温度が下がることにより、お湯の温

度を「緑色を退色させる酵素が活発になる40℃」に近づけない等、理由が科学的に説明されており、なぜ失敗したかのヒントが得られるようになっています。

科学というと、私たち一般人とかけ離れたところにある縁遠い物に感じますが、意外に身近なところで役に立つのですね。学校で学んだ事がこんなところで身が結びとはちょっとうれしい気持ちになりました。

図書館にはこのほかにも、「日常生活に役立つ知恵袋」の本がたくさんあります。もしよろしかったら、いつもと違う書架を訪ねてみてください。



『調理科学のなぜ？』
松本仲子／著 朝日新聞出版

■麻生図書館柿生分館

小田急線柿生駅北口から徒歩5分。柿生小学校の敷地内にある図書館です。「柿生」の由来は「禅寺丸柿の生まれた町」「柿の木が生い茂っている村」という意味だといわれています。

柿生分館の入口は学校と別で、柿生駅から黒川方面に歩き、学校正門を通り過ぎた角を左に曲がったところに専用の入口があります。入口は別でも中は小学校とつながっているのが特徴で、部屋のおよそ6割が柿生分館、残りの4割が柿生小学校の図書室となっており、学校の中休みや放課後は子どもたちでにぎわいます。

児童書の割合が川崎の図書館や分館の中では一番高く、蔵書4万冊のうち半数近くが児童書です。館内には「あかちゃん絵本コーナー」も設置されており、未就学児を連れた親子でも楽しめます。毎週水曜日に開催する「おはなし会」は3歳からを対象にしたもの、小学生を対象にしたものがあります。近くにお越しの際は是非お立ち寄りください。

『かわさきロケアワード2008－2018』

映像のまちかわさき10周年を記念して、2008年～2018年の間に川崎で撮影が行われた映画・ドラマの中からあなたの「マイベスト」作品を選んで投票する「かわさきロケアワード」が2月28日まで開催中です。

これにあわせて、川崎市立図書館（分館・閲覧所を除く）では、該当作品の原作やシナリオ等を集めた特集コーナーを設置いたします。

★ 開催期間は図書館によって違いますので、各館に直接お問い合わせください。

高津図書館2月臨時休館
（工事のため）

2月4日（月）・18日（月）～2月25日（月）

★ 返却ポストはご利用いただけます。

編集・発行 川崎市立中原図書館

〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-1301

TEL044-722-4932

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413)

麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550)

橘 分館(788-1531)

幸 図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918)

田島分館(333-9120)

柿生分館(986-6470)

中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400)

日吉分館(587-1491)

菅閲覧所(946-3271)